



# ざ・神港労連

## 第66回神港労連定期大会 豊橋・シーパレスにて初開催

十月十一日(十二日)にかけて豊橋・シーパレスに於いて、第六十六回神港労連定期大会を役員十九名・代議員四十一名・オブザーバー三名で開催した。また、来賓には、日港労連より竹内委員長・岡部書記長、神戸港湾から西澤事務局、全日検労働組合神戸から稲田執行委員長にご臨席を賜りました。

続いて吉岡執行委員長による開会の挨拶があった。「新型コロナウイルスが二類から五類に引き下げましたが、依然として感染拡大しており、予断を許さない状況下にあります。現場においては、厳しい環境下のなか、人手不足の中、命がけで作業に従事しており、本年も猛暑が続くなか、重度の熱中症も無く安全作業で乗り越えられ事に対して、敬意を表するとともにお礼を申し上げます。港湾情勢でありますが神戸港ポートアイランド地区において、PC十三(十七)の一体利用が発表され、拡張後のKICTは西日本最大のコンテナターミ

ナルとなりませんが、再編・集約に伴う雇用不安など起きないように注視していく必要があります。またRTTG遠隔操作、自動化をはじめ(吉岡 執行委員長)

めとした様々な港湾政策に港湾労働が翻弄され続けているなか、專業労働組合の運動の根幹は現場で働く組合員の雇用と職域を守り、安心して働ける労働環境の



第86号  
発行元  
神戸港湾労働組合連合会

確保と安全な職場を構築する事が一番であります。本日、提案する運動方針にも一番の主軸として掲げております。また、エネルギー価格の高騰により、様々な生活物資の値上げが始まり、我々の暮らしは苦しくなる一方です。

神戸港の取り扱いに関しましては、コンテナ貨物の取り扱いは増加傾向であります。在来船の取り扱いについては、前年度と比較して減少傾向に歯止めがかからない厳しい状況にあります。船社や荷主の利便性ばかりが先行されますが、我々、労働組合は、これまでの諸先輩方が命をかけて守ってきた神戸港の雇用秩序と常用港湾労働者中心の港を維持継続する事と、さらに発展させ労働者が働きやすい安全・安心な港であり続けるよう、努力していかなければなりません。その為には、更なる団結力の強化と組合運動へのご理解と、ご協力を皆様にお願ひするところであります。また、山積する諸課題に立ち向かうには、十分に活動を総括し、運動方針について検討をして頂き、次年度の活力につながる大会となりますよう、お願い申し上げます。」と



(昌栄運輸労働組合 中島代議員)

述べた。大会では、活動経過、会計決算報告、二三運動方針(案)、予算(案)などを執行部により提案し、全会一致で承認された。

また、更なる組織強化・団結を図る為、吉岡執行委員長と集結された代議員の皆様とガンバロウ三唱で大会を終了した。

尚、今大会の議長団は昌栄運輸労働組合・中島代議員とサンソー港運労働組合・片山代議員の両名であり行なって頂き、ご苦勞様でした。

(サンソー港運労働組合 片山代議員)

# 代議員からの質疑

## 「春闘基準外と定年延長」



(甲陽運輸労働組合 安井代議員)

二三港荷春闘協定において、基準外を夏季・冬季一時金に等分上乘せ実績として、協定を締結したが、夏季一時金では、基準外という結果であった。このことで各単組に大きな混乱を招いた。今後は賃上げと一時金は切り離して交渉して頂きたい。

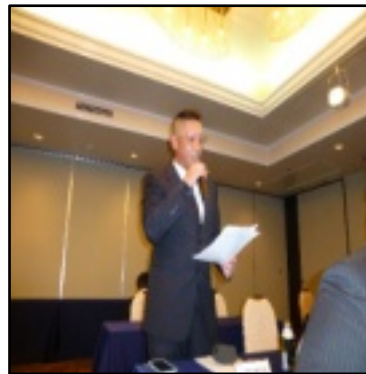
「春闘基準外と定年延長」  
執行部より答弁  
夏季一時金では実績にできなかったが、年末一時金では、交渉が始まる前に業側と折衝を行い、実績になるように交渉を進めて行く。定年延長の遡減については、各社協議を行っているが、一向に進んでいないのが現状であることから、機関会議のなかで、調査を行い打開策を検討していく。



(上津港運労働組合 島代議員)

「退職金改定について」  
執行部より答弁  
一四港荷春闘協定に於いて、二〇一七年を目途に改定協議を労使専門委員会で行うとされているが、改定協議は進んでいません。通減された環境に置かれていた定年延長者の事情を鑑み改定協議は前進させなければならぬと思います。これらの事を踏まえて現在に至るまでの経緯または今後の方針等を具体的に伺いかせてください。

「雇用と職域について」  
執行部より答弁  
近年の独禁法問題で改定協議が進んでいないのが現状です。神戸地区においては、二〇一三年に改定しましたが、約十年改定されておられません。この問題については、港荷労使継続協議専門委員会、単組代表者会議で提起していく。



(ニッケルエンドライオンス労働組合 山中代議員)

「年末・年始の労働条件の改善」  
執行部より答弁  
二三産別春闘協定で賃金労働時間問題専門委員会において協議していくと協定され、現在も協議中となっている。協議が進展しないようであれば、日港労連、全国港湾の中央委員会において提起していく。



(日本港運労働組合 佐藤代議員)

例外外荷役の労働条件改善を要求していましたが、賃金・労働時間問題専門委員会において協議していく。と協定され、現在協議されていますが、今年の年末年始例外荷役では、労働条件改善について、全国港湾はどの様に考えておられるのか、お聞かせください。



**執行部より答弁**

完全休日もしくは、350%自然増込みで協議にのぞんでいく。

「港荷春闘における賃上げ要求について」

(神港作業労働組合)

阿部 代議員

二三港荷春闘では三万円の要求を行なったが、結果は昨年同様、基準内八千円で合意となった。組合員からは要求金額を上げているのに、何故、合意するのか

と厳しい声があった。「あるべき賃金」問題はわかるが、一万円の要求で満額回答を目指す等、現実的な要求金額にして頂きたい。



**執行部より答弁**

二三港荷春闘では、物価高もあり三万円の要求を行なった。要求主旨として、一般他産業と比べると十万円以上の格差がある。よって、段階を踏んで要求をしている。また、あるべき賃金は毎年改定されていることから、現行各産別制度賃金についても十%の要求をした。

今年の定期大会をもって執行部で活躍されていましたが、崎田委員長代行(中央港運労働組合) 乾執行委員(木下商会労働組合) 古澤会計(山九神戸支店労働組合)の三名が退任されました。

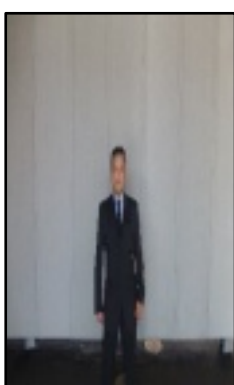
〳退任役員履歴〵

崎田 克己 氏  
(中央港運労働組合)



一九九四年 神戸港湾労働組合連合会第二十七回定期大会にて執行委員に就任  
一九九八年 神戸港湾労働組合連合会第四十一回定期大会にて書記長に就任  
二〇一一年 神戸港湾労働組合連合会第五十四回定期大会にて執行委員長代行に就任

乾 孝博 氏  
(木下商会労働組合)



二〇一六年 神戸港湾労働組合連合会第五十九回定期大会にて執行委員に就任

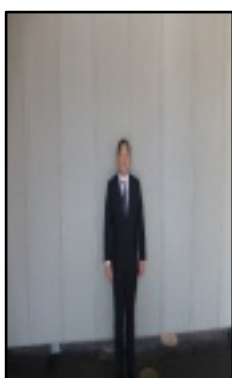
古澤 隼実 氏  
(山九神戸支店労働組合)



二〇一九年 神戸港湾労働組合連合会第六十二回定期大会にて執行委員に就任  
二〇二一年 神戸港湾労働組合連合会第六十四回定期大会にて会計に就任

〔新役員の紹介〕

吉田 峰令 新執行委員  
(中央港運労働組合)



森岡 亮太郎 新執行委員  
(山九神戸支店労働組合)



二〇二三年度 神港労連役員名簿

執行委員長	吉岡 幸治	執行委員	宮西 孝治	執行委員	宮西 孝治
副委員長	松田 邦秀	執行委員	神崎 修治	執行委員	神崎 修治
副委員長	行生 邦秀	執行委員	大西 輝彦	執行委員	大西 輝彦
書記長	正木 一	執行委員	鈴木 貴春	執行委員	鈴木 貴春
副書記長	大石 浩二	執行委員	吉田 峰令	執行委員	吉田 峰令
書記次長	菊屋 優彰	執行委員	(新任) 森岡亮太郎	執行委員	(新任) 森岡亮太郎
書記	菊屋 優彰	執行委員	(新任) 杉村 喜久	執行委員	(新任) 杉村 喜久
書記	菊屋 優彰	執行委員	川戸 努	執行委員	川戸 努
会計	(新任) 榮 恵輔	執行委員	岡崎 正良	執行委員	岡崎 正良
会計	(新任) 榮 恵輔	執行委員	吉岡 裕太	執行委員	吉岡 裕太
特別執行委員	竹内 一	特別執行委員	竹内 一	特別執行委員	竹内 一
特別執行委員	高島 弘司	特別執行委員	高島 弘司	特別執行委員	高島 弘司
特別執行委員	古澤 隼実	特別執行委員	古澤 隼実	特別執行委員	古澤 隼実
特別相談役	西川憲一郎	特別相談役	西川憲一郎	特別相談役	西川憲一郎